

バイオを知る

# くらしとバイオ LETTER 18

特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ21

2020年4月

## 活動報告

### サイエンスアゴラ2019ワークショップ開催

11月16日、サイエンスアゴラ2019でワークショップ「あなたががんになったらー患者と家族をみんなで支える“医療コミュニケーション”」を開きました（於 テレコムセンター）。がんについて知っている人もそうでない人も、専門職の話題提供の後に、グループで話し合い、「がんになったらしてほしいこと」「患者や家族のために自分にできること」をともに考えました。最後にそれぞれの考えを黄色とピンクのメッセージカードに書き込み、皆の前で読み上げては模造紙にはりました。病気になっても、ならなくても、家族を大切にしたいという気持ちを持つ参加者が多くいることがわかりました。

#### 話題提供

「どんどん、医療コミュニケーション」くすりの適正使用協議会

理事長 俵木登美子さん

専門職から情報提供 (1) 聖路加国際病院 遺伝カウンセラー 鈴木美慧さん

専門書から情報提供 (2) 東京大学医科学研究所附属病院

がん化学療法看護認定看護師 都留由香里さん



### 定例総会 記念講演会のお知らせ

くらしとバイオプラザ21の会員以外の方でも講演会に参加可能です。みなさま、お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

日時 : 2020年5月14日(木) 15時30分~16時30分

会場 : 銀座フェニックスプラザ

講師 : 朝日新聞科学コーディネーター 高橋真理子氏

タイトル: 「ゲノム編集へのまなざし

ー朝日新聞の言論サイト『論座』の寄稿を読み解く」



#### 高橋 真理子氏プロフィール

東京大学理学部物理学科を卒業。朝日新聞社入社。岐阜支局、東京本社科学部などを経て、論説委員(科学技術、医療担当)、科学部長、編集委員などを歴任。2002-2007年世界科学ジャーナリスト連盟理事。現在も日本科学技術ジャーナリスト会議理事としても活躍。著書は『村山さん、宇宙はどこまでわかったんですか?』(共著)、『最新子宮頸がん予防~ワクチンと検診の正しい受け方』朝日新聞出版など。

\*会場写真は2019年  
総会講演より

お申込み/お問い合わせ先 : くらしとバイオプラザ21 bio@life-bio.or.jp



### 2019年10月19日 ヒトゲノムを用いる実験教室 第14回「私たちのDNA」

東京テクニカルカレッジで第14回「私たちのDNA」を開きました。自分のうがい液から、口腔粘膜細胞を集め、DNAを抽出して、Alu 配列について調べたり、目視観察を行いました。遺伝情報取扱協会 事務局長市川弘久氏より、「DTC(消費者直販型) DNA検査の現状」というお話をうかがい、今年は高校生が3人も参加し、実験後には希望に満ちた話し合いをすることができました。(共催 東京テクニカルカレッジバイオテクノロジー科 協賛：特定非営利活動法人個人遺伝情報取扱協議会、バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社、特定非営利活動法人日本バイオ技術教育学会)



### 2019年 11月8日 第29回 コンシューマーズカフェ

#### 「知っていますか？身近に使われているナノセルロースー新技術をめぐるコミュニケーション」

国立研究開発法人 産業技術総合研究所材料・化学領域 研究戦略部 上席イノベーションコーディネータ 平田悟史さんを講師としてお招きし、ナノセルロースのお話をうかがいました。

ナノというと、とても遠いことのように思っていたのですが、ナノセルロースには種類があることが説明された後、具体的に、工業、食品など様々な分野における応用事例が多く紹介されました。わかりやすい説明であったと、参加者は大満足でした。



### 2020年2月12日 第30回コンシューマーズカフェ

#### 「食品表示の現状とこれから」

新しい食品表示法ができて、栄養成分表示、原料原産地表示、遺伝子組換え食品の表示などの見直しが行われました。今は食品添加物のとりまとめが行われています。「無添加表示」に対する議論が動いていたり、見直された新しい表示が始まる日も近づいています。

講師は、一般社団法人「Food Communication Compass」代表 森田満樹さんから、現状とこれからについてお話いただきました。



### **ifia JAPAN2020 ご案内**

「ifia JAPAN(国際食品素材/添加物展・会議)2020」が、4月22-24日、東京ビッグサイト 青海展示棟A・Bで開催されます。昨年に続き、くらしとバイプラザ21は「食の安全・科学ゾーン」に、食の安全・安心財団、食の安全と安心を科学する会 (SFSS)などと一緒にブース出展をいたします。どうぞお出かけください。また、同ゾーンでリスクミセッションを以下のように開きます。

**日時 2020年4月24日 15:50-16:20**

**講師 一般社団法人「Food Communication Compass」**

**代表 森田満樹 氏**

**タイトル 「食品表示の見直しをふりかえって (仮題)」**



\*会場写真はifia2019より

# バイオカフェのこのころ



11月1日 東京テクニカルカレッジ  
「健康・未病・病気とパーソナルゲノム」  
東京医科歯科大学 難治性疾患研究所分子疫学  
教授 村松正明さん

11月9日 千葉県立現代産業科学館「風邪に負けない“最強の手洗い”伝授します」  
丸石製薬株式会社 感染対策コンシェルジュ  
和田祐爾さん



12月6日 日本橋洋菓子店 門  
「楽しい海外旅行にするために一出国前と帰国後の感染症対策」東大医科研先端医療研究センター感染症分野  
附属病院感染免疫内科 助教 古賀道子さん

2020年2月14日 東京テクニカルカレッジ  
「神秘的生き物カプトガニがもたらすイノベーション」LPSコンサルティング事務所 代表  
田村弘志さん

## 生協の皆さんとステークホルダー会議を開きました ～ゲノム編集技術をめぐるサイエンスコミュニケーション～

ゲノム編集技術を応用した、栄養価の高いトマト、肉厚のタイ、芽の毒（ソラニンなど）のできにくいジャガイモなどの研究開発が、日本国内で進められています。全国の生活協同組合の中には、ゲノム編集技術はどのようなものか、食品の安全性や環境への影響についてどのようなルールが作られているのかなどに高い関心を持っている方々がおられます。私たちは生協の皆さんとともに学び、考える企画をいたしました。具体的には、2018年にサイエンスアゴラ2018で行った、ステークホルダー会議という、くらしとバイオプラザ21オリジナルの手法を使って、生産者、消費者などの役割のグループに分かれて、講師に質問したり、話し合いをしたりしました。最後に、ゲノム編集技術で得られた食物を使うか（食べるか）を、グループごとに、YESかNOに決めて発表しました。

2019年11月25日 コープこうべ

講師 大阪大学大学院工学研究科 村中俊哉先生

2019年12月5日、京都生活協同組合

講師 京都大学農学部 木下政人先生



## マラリア患者と「くすり」を、早くつなげよう！

2019年12月15日、大阪科学技術館で、実験教室「作って、観て、紙顕微鏡」を開催しました。  
(共催 大阪科学技術館 後援 大日本住友製薬株式会社、田辺三菱製薬株式会社)。紙の顕微鏡は貧富の差を越えて、世界中の人が科学技術の恩恵に与れるようにと、スタンフォード大学(米国)で発明された顕微鏡です。マラリアは100カ国余りで流行していて、毎年、2億人以上の人がかかり、200万人もなくなる方がいる、蚊が媒介する病気です。亡くなるのは主にアフリカ南部の5歳未満の子供たちです。紙の顕微鏡は、マラリアの治療はできませんが、患者さんの血液を調べて、いち早く治療薬に患者さんをつなげる働きをします。本実験教室では、紙の顕微鏡を使って観察したり、組み立てたりしながら、日本にいる私たちのように衛生的な生活ができない人たちのこと、医療に与れない人たちのことも一緒に考えました。



### 学会発表

12月8日 日本サイエンスコミュニケーション協会 年会 口頭発表  
「がんのリテラシー醸成の動機付けを目指すワークショップの試み」

### 講師派遣報告 2019年9月～2020年1月

- 9月25日～12月18日 東洋大学 板倉キャンパス  
「サイエンスコミュニケーション特論」講義(全15回)  
「サイエンスコミュニケーション演習」講義(全15回)
- 9月26日～2019年1月23日 神奈川工科大学「科学技術と社会」講義(全15回)
- 10月9日 くろまる塾 「ゲノム編集がもたらす食の変化の多様性を考える」ファシリテーション
- 1月7日 東洋大学 「植物バイオ」
- 1月10日 神奈川工科大学「バイオ製品科学」講義
- 1月25日 東京工業大学「高校生バイオコンテスト」 審査員



### 会員特典

私たちの活動を応援してくださる協力(個人)会員を(1口 2,000円～) 常時募集中です。会員になるとイベントに関する情報が優先的に得られたり参加費が安くなることもあります。もちろん、バイオライター(紙媒体)もお届けします(2回/年)

編集後記：新型コロナウイルスの話題がたびたび登場し、様々な催しが中止になっています。苦渋の決断とはいえ、この時期は成果発表会なども多く、長い間準備をしてきたのにとがっかりされている方もおられることでしょう。早く治療法が確立することを願うばかりです。私たちは食品、原子力などのリスクコミュニケーションに関わる中で、リスク回避に過敏になるあまり、より強い不安に中にある人たちへの差別のような言動を耳にすることがあり、それをとても哀しいことだと思っています。一方、世界保健機関や厚生労働省が、致死率が低いことを説明したり、怖がりすぎないように注意喚起したりしています。私たちは、社会はよい方向に向かっていくと信じ、科学的な情報を多くの方がわかる言葉で伝えることで、正しく怖がる勇気につなげる一助になればと思います。

特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21

<http://www.life-bio.or.jp>

編集 佐々義子・二瓶美郷

カット 中村典子

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町3-5-3

日宝茅場町ビル8階

電話：03-5651-5810

FAX：03-3669-7810

e-mail: bio@life-bio.or.jp

